

「納税から考える社会問題」

佐々木 喜会

私は、保育園から現在の中学校までずっと公立に通っている。教科書の配布や施設の管理など、小学校や中学校での私たちの生活がたくさんの税金によって支えられていることは気づいていた。しかし最近、保育園での生活も税金に支えられていたと母から教えてもらった。私には二人の姉がいる。私の通った保育園では、当時から第三子の保育料は無償になるという制度があった。そのおかげで、私が保育園に通っているときはその分の料金がかからなかった。でも、だからと言ってその分保育園にお金がいなくなるというわけにはいかない。施設管理のための費用や保育士さんのためのお金は必要はずだ。そう、無償となったその分は税金で補われていた。私の身の回りの人だけでなく、日本中のたくさんの人の税金のおかげだった。自分が小さかった時からこんなに税金に支えられていたことにとても驚いた。

ではなぜ第三子の保育料は無償になっていたのだろう。さらに調べてみると、この制度の目的の一つに少子化対策があることを知った。幼児教育の負担を軽減し少子化対策を進めるために、現在はさらに全国で無償化の対象が広がっている。個人個人を支えるためだけでなく、少子化という将来に繋がる社会問題が背景にあったのだ。このほかに税金がどんなことに使われているか調べてみた。道路や河川の整備、コロナウイルスのワクチン、子供たちの医療費の補助など、私の身の回りだけでもこれだけの使い道を思いついた。でもなぜこれらに個人のお金ではなく、税金が使われているのかという背景は考えたことがない。これらの税金の使われ方の目的にも、近年増加する自然災害やコロナウイルス、少子化などの社会問題への対策があったのだ。

税金は人々の暮らしを支えるだけでなく、社会問題の解決や対策にも使われている。つまり私たちは納税によって社会問題に取り組むことができる。税金を納めることで一人では行動できない環境問題などに協力できるようになる。また、それがたくさん集まって適切に税金を活用すれば、大きな力となって問題の解決を目指すこともできるのだ。

私は地球温暖化に危機感を持っているが、身近な節電などを行う以外にどう行動すればいいか分からずにいる。地球温暖化を背景とした、再生可能エネルギーの導入や森林の整備などにも税金は使われているはずだ。税金を納められるようになったら、納税によって未来の世代の環境を守っていきたい。納税という思いと力がたくさん集まってこうした環境問題が解決していけば、また別の問題やたくさんの人のために税金を使うこともできるようになるはずだ。そのために、まずは税金の仕組みや使い道について知る一歩から始めたい。